

ばれっと

2008
12月

No.112

■ 目次 ■

すぽっとらいと

薬物依存症者の回復を手助けする
特定非営利活動法人「仙台ダルク・グループ」

アラカルト

CSRってなあに？社会貢献活動編

サポセン広場

サポセン利用者の声から（拡大版）

イベント紹介

12月のイベント紹介

お知らせ



カレンダーも残すところ、あとわずか…

サポセン館内の清掃業務を一手に引き受け、日頃から支えて下さっているのが、お掃除を担当している皆さん。

「サポセンはいつもきれいですね」という利用者の方々の声から、きめ細やかな仕事ぶりは折り紙付き。

そろそろ年末大掃除を…という今日この頃ですが、サポセンはいつもピカピカです。

すぽっとらいと

◆市民活動サポートセンターを活用している団体にスポットをあて、その活動の様子や運営のノウハウをご紹介します。

薬物依存症者の回復を手助けする 特定非営利活動法人「仙台ダルク・グループ」

仙台市市民活動サポートセンターを開館当初から利用している団体のひとつで、おととしNPO法人化した「仙台ダルク・グループ」(以下仙台ダルク)の飯室勉代表にお話をうかがいました。表に出にくい問題に長年取り組んできた団体だからこそ経験した苦労と工夫を紹介します。



▲ 代表の飯室勉さん

● ニーズと支援者の両輪がそろい立ち上げ

ダルク (Drug Addiction Rehabilitation Center) は、薬物依存症者の回復を手助けする民間施設で、全国各地にあります。その特徴は、利用者も、スタッフも、責任者も、すべて薬物依存症の当事者であるということ。薬物依存症を抱え、ダルクのプログラムで回復を経験してきた当事者が、回復しようとしている薬物依存症者を手助けしています。

仙台ダルクができるまで、東北地方にはダルクがなく、茨城ダルクが東北の薬物依存症者の受け皿となっていました。

東北からの相談が増えつつある中、また、ダルクの回復プログラムを経験したスタッフが育ってきたこともあって、仙台にもダルクをつくろうという支援者が集まり、1996年、宮城野区鶴ヶ谷に仙台ダルクがオープンしました。(現在地は青葉区上杉)

● 「本人の意志の問題」という誤解

仙台ダルクが活動をする中で感じている社会の壁があります。それは、薬物依存が、今でも「本人の意志」や「根性」の問題だととらえられていること。社会の課題ではなく、個人の意志の問題との見方がまだまだ多く、支援がなかなか得られないのです。

薬物依存症の当事者や家族ですら、「本人の意志」や「根性」の問題だと思っている場合があります。このような状況では、薬物依存から抜け出たくても抜け出せない人々が「意志が弱いから」と一言で片付けられてしまい、回復への道が

閉ざされてしまいます。

そんな誤解を解くために、仙台ダルクでは、薬物依存が「薬物依存症」という「病気」だということを伝える活動をしています。「病気」なのだから、「本人の意志」や「根性」だけで克服できるものではないのです。

また、「薬物依存症」は再発の可能性もあります。世間には、「違法薬物の依存者は、逮捕されればやめられる」という誤解もありますが、逮捕されたからといって、きれいさっぱりやめられるというものでもありません。一度回復した人たちでも、再発の可能性を抱えながら、社会生活を送っていかねばならないのです。

仙台ダルクでは、こうした人たちの社会復帰のお手伝いをしています。9ヶ月から1年の入所・通所のプログラムには、常時10名ほどが参加しています。

● NPO法人化の裏側

1996年から活動している仙台ダルクは、2006年7月に、「仙台ダルク・グループ」として特定非営利活動法人(以下、NPO法人)になりました。NPO法人として情報公開を積極的に行い、社会での認知を高めようという思いから法人化に踏み切ったそうですが、その背景には、行政からの法人化要請もあったといいます。「市や国の関係機関では、法人格を重視する動きがある」というのが、代表の飯室さんの見方です。

飯室さんは、「NPO自体の社会的信頼や認知は、これからだ」とも指摘しています。仙台ダルクが積極的に情報公開に取り組んでいるように、ひとつひとつのNPOが情報公開を進め、信頼や認知を重ねていくことがNPO全体の信頼や認知につながっていくことでしょう。

必要に迫られて法人化したものの、事務的な仕事は確実に増加したといいます。自立支援法に基づく、小規模作業所としての事務処理も重なり、



団体紹介

特定非営利活動法人「仙台ダルク・グループ」

仙台ダルクは、「今日一日だけ薬を使うのを止めよう」というスローガンをかけ、1996年薬物依存症者の回復施設として開設された。薬物依存から回復するためのプログラムを提供するとともに、「仙台ダルク家族会」を開き、身内や知人に薬物依存症を抱える人たちを支援するための活動も行っている。

<団体連絡・問合せ先>

仙台市青葉区上杉2-1-26

TEL 022-261-5341

FAX 022-261-5340

ホームページURL <http://www6.ocn.ne.jp/~s-darc/>



▲ 仙台ダルクの事務所

大きな負担になっているそうです。仕事の増加からストレスがかかり、事務を担当していた人が回復状態から再発してしまったという事例も全国的にはあるそうです。スタッフの健康管理にも気が抜けないというのが、NPO法人化した現在の状況です。

● 家族会とサポセン

仙台ダルクは、サポセンを開館当初から利用している団体の一つです。サポセンでは、定期的に「仙台ダルク家族会」が開催されています。家族会は、薬物依存症者を家族にもつ人たちが、支えあう場です。依存症は「関係の病」と言われるように、本人だけではなく、家族や周囲との関係も回復に関わる要素の一つです。薬物依存症者の回復を手助けするために、家族はどう向き合えばいいのか。家族会は、自立的に運営をしながら、当事者の家族同士が思いを共有する場として開かれています。

飯室さんいわく、「なんか何がこじんまりとっていて、街に近いのがちょうどいいね」というのが、サポセンを会場にしている理由だそうです。サポセンのロッカーには、家族会で毎回使う資料や道具を保管しており、重い荷物を毎回運ぶこともありません。

● 地域とともに

仙台ダルクには、年間300~400件の相談が寄せられています。そのほとんどが薬物依存症者の家族からの相談で、情報源としては、ホームページや知人の紹介が多いそうです。逮捕や離婚、失業といったきっかけで薬物依存症が発見されることが多く、それゆえに、プライバシーが守られ、自分で情報検索ができるホームページの役割は大きいといえます。

薬物依存症に対する偏見から、まだまだ地域の

支援が少ないというのが現状です。偏見があることで、問題が秘密になりやすく、表に出にくくなっています。問題が表に出ないので、社会の関心が向かず、地域の支援がなかなか得られないという悪循環があるのです。仙台ダルクでは、薬物依存症についてのメッセージを発信することで、問題を可視化し、地域への支援を呼びかけています。

地域へのメッセージ発信の一手段として、仙台ダルクをはじめ、アルコール依存症や、ギャンブル依存症、摂食障害など、様々な依存症（アディクション）の問題に取り組んでいる団体が一堂に会する「アディクションフォーラム」を開催して、今年で8回目になります。

200人規模となるこのフォーラムの広報は、サポセンで行っている「骨プロ」を利用して、市内9施設へチラシを置いているほかに、状況によって新聞などのメディアを利用することもあります。ただFAXを送るだけでなく、記者を呼んで記事にしてもらおうというのがポイントです。長年活動を続けているからこそ、記者の人たちと顔が見える関係をつくることができていると言えるでしょう。

薬物依存症者やその家族が悩みを相談できる窓口が地域にあることは、地域にとっても有益です。それは、年間の相談数を見てもあきらかです。地域での認知を上げ、地域とともに支えあっていくことを、仙台ダルクは目指しています。

取材を終えて…

社会の誤解や偏見と戦ってきた飯室さんが「当事者が声を上げるしかなかった」と熱く語る姿に、この熱血ぶりが社会を変える原動力になるのだなと感じました。

(担当：太田 貴)

アラカルト

◆市民活動に役立つ情報やサポセンで開催された講座や事業の報告など、毎月いろいろなテーマでお送りします。

CSRってなあに？ 社会貢献活動編

最近さまざまなメディアで、企業の社会的責任を意味する“CSR”という言葉を目にすることが多くなりました。

今回は、二つの事例を紹介しながら、CSRの取り組みについて紹介します。

■「三方よし」のCSR

“CSR” Corporate Social Responsibility
日本語では、「企業の社会的責任」と一般的に言われ、企業が社会の一員として果たすべき責任を意味します。

社会的にもCSRの考えが広まり注目を集めています。実は日本では昔から、商取引において「近江商人の三方よし」という考え方がありました。売り手よし、買い手よし、世間よしという「三方よし」の視点で見ると、CSRの範囲が多岐に渡ることがイメージできます。

■ 多様な社会貢献活動

今回は、CSRの中でも、社会貢献活動に注目していきます。皆さんは、企業の社会貢献活動というと、どのような取り組みを思い浮かべますか。

テレビを見ていると環境保護のために植林活動をしたり、被災地へ物資の提供をしたり、お金や物による寄付のイメージが強いかもしれませんが、確かに寄付などの割合は大きいですが、時代とともに少しずつ多様化してきています。

例えば、地域社会の一員として、積極的に地域活動に参加する例も増えてきました。

事例1 社員がアレマ隊に変身？

キリンビバレッジ(株)東北地区本部

仙台市青葉区に事務所があるキリンビバレッジ(株)東北地区本部では、十数年前から街の清掃活動に取り組んでいます。始業前の一時間、定禅寺通りに沿って約600mの清掃活動を社員全員で行うのです。東北地区本部として行っている清掃活動は年一回ですが、社員の皆さんは、この他にもグループ会社が行っている海岸清掃や森林保全活動に自主的にボランティアとして参加しているそうです。

「もともと社員の環境に関する意識は高いですが、清掃活動をすることで『ごみのポイ捨ては絶対しない』という気持ちが身につく、まち美化に対する意識は高まっています。」と総務部長の鈴木隆政さん。

この清掃活動は仙台市が行うポイ捨てごみの調査・清掃キャンペーン（アレマキャンペーン）に参加しています。春と秋に行われるこのキャンペーンは、企業が無理せず気軽に、地域活動に参加するためのきっかけづくりとなります。

*アレマキャンペーンの問い合わせ先

仙台市環境局廃棄物管理課 TEL 022-214-8250

<http://www.city.sendai.jp/kankyou/haikibutsu/t-beauty/>

■ 企業の社会的責任とは？

日本における代表的な取り組みには、以下の6つが挙げられます。

- ①コンプライアンス・企業倫理…企業倫理の徹底を図る、法令を遵守する
- ②情報…ステークホルダー（利害関係者）に適時適切に情報を開示する、情報を適切に管理する
- ③安全と品質…高品質かつ安全な製品・サービスを、安全な方法で生産・提供する
- ④人権・労働…企業の活動によって影響を受ける人々の人権を尊重する、従業員を尊重する
- ⑤環境…環境に配慮した事業活動を展開する、環境情報を提供する
- ⑥社会貢献…健全で持続可能な社会づくりのために社会貢献活動を展開する

<出典：(社)日本経済団体連合会：CSR推進ツール>

事例2 企業+NPOで課題解決

(株)セレクトィー（家庭教師のアップル）

宮城県内で「家庭教師のアップル」を事業展開している(株)セレクトィーは、発達障害のある子どもたちに対する専門の講師を養成しています。この取り組みは、NPO法人「自閉症ピアカウンセリングセンター ここねっと」と連携して実施しています。

連携のきっかけは、発達障害のある子どもたちの学習サポート件数が増え、現場の教師から専門的なスキルを身につける必要があると提案されたことからでした。そこで、発達障害について専門的なスキルを持つ「ここねっと」の研修会へ参加したのです。

一方、「ここねっと」では、学習ボランティアが足りないという課題を抱えていました。早速、連携してチームをつくり、教師養成のプログラム開発に取り組みました。

「NPOとお互いの得意分野を生かしながら事業内容をつくったことで、教師のスキルアップや多様な機関とつながるきっかけになりました」と専務取締役の鈴木由美さん。

本業の成果を生かし、NPOと連携することで、それぞれの課題、地域社会の課題解決につなげることができた例です。

(株)セレクトィーでは、ますます多様化するニーズに応えるために、今後も多くの専門機関と連携していきたいと考えています。



■ これからのCSR

今までのCSRでは、社会貢献活動と言うと、寄付や援助などの企業からの一方向の支援という形をとることが多かったのですが、(株)セレクトィーのように、本業とつなげながら行う企業も少しずつですが増えてきました。企業もNPOのように社会的な問題を発見し、それを解決するために動き出していると捉えることができます。だとすれば、その分野で長年活動してきたNPOは、企業側から見ればノウハウを蓄積している専門機関です。これからは、両者の協働の事例がさらに増え、お互いの魅力がアップするだけでなく、新たな事業を生み出すことが期待されています。

サポセンでは、1階の情報サロンに今年から「CSRコーナー」を設置し、企業のCSRレポートなどの情報収集と提供を行っています。

また、開館以来蓄積してきたNPOの情報は「団体情報ファイル」として閲覧できます。

協働のきっかけになる情報があるかもしれません、ぜひご来館いただき、コーナーを覗いてみてください。

(担当：高橋 陽佑、小松 州子)

■ サポセンからのお知らせ ■

サポセンでは、企業の皆さんからの社会貢献活動に関する情報をお待ちしております。

「こんな取り組みをしている」「こんな成果があった!」などの情報をお寄せ下さい。

また、2009年2月上旬 CSRをテーマとしたサロンの開催を予定しています。

サポ本を読もう! もっと知りたいCSR

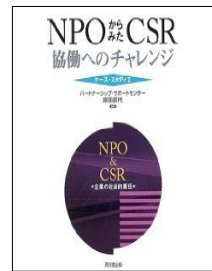
■ サポセン1階情報サロン CSRコーナーにあります。



『CSRがよ〜くわかる本』
 編者：(株)日本総合研究所
 白鳥わか子、萩原美穂
 発行：秀和システム



『CSR働く意味を問う』
 編者：日経CSRプロジェクト
 発行：日本経済新聞出版社



『NPOからみたCSR 協働へのチャレンジ』
 編著：岸田真代、パートナーシップ サポートセンター
 発行：同文館出版

拡大版

サポセン広場

今回は、拡大版として、6月～10月の間に利用票の感想欄に寄せられた利用者みなさんの声をご紹介します、

一人で家でやってもいいのですがなかなかかどらず、5F交流サロンで、周囲の会話を気にせず集中してできました。ありがとうございました。

作業がはかどったようでなによりです。家とは違って、広い机を利用して作業ができる交流サロンは、事務作業にもってこい입니다。交流サロンは、3階・5階・7階にあります。ご利用の際は1階窓口で受付をお願いします。

交流サロンにある文具を使わせてもらい、助かりました。

交流サロン、印刷作業室に置いてある文具は「みんなの文具」といい、市民の方から寄贈していただいたものです。作業に必要な文具は、団体自身で用意していただいておりますが、もし足りなくなった時にご利用ください。

貸室の開錠時間が15分前ですが、もう少し前であれば、ありがたいです。

本来は申込時間に準備と片付けの時間が含まれています。15分前からの鍵の貸出は、窓口での特例措置となっています。15分が、窓口で融通できる最大時間ですので、ご了承ください。

館内にジュースの自販機の設置をよろしくおねがいします。

サポセンでは、環境に配慮し、できるだけゴミを出さないよう自動販売機は設置していません。その代わりに、お茶碗、コップ、ポット、急須などはご用意しています。ひと手間かかってしまいますが、どうぞご利用ください。

サポセンセンターに居るご意見、ご感想をお聞かせ下さい。利用票の感想欄にご記入のうえ、1F事務局までご提出をお願いします。

利用票

利用日時 年 月 日 () 時 分 ~ 時 分 まで

団体名 _____ 人数 _____ 人

※本日はどんなことでお役にになりましたか。また、ご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

希望業務 (口頭でも可) _____

貸室・印刷室	研修室	会議室	研修室
研修室	研修室	会議室	研修室
研修室	研修室	会議室	研修室

希望業務 (口頭でも可) _____

印刷	複写機	印刷機	複写機
印刷	複写機	印刷機	複写機
印刷	複写機	印刷機	複写機

●利用票は以下の頁の欄をお読みください。 ●希望業務は記入する時必ず「口頭でも可」を記入してください。 ●希望業務は記入する時必ず「口頭でも可」を記入してください。 ●希望業務は記入する時必ず「口頭でも可」を記入してください。

当センターは障がい者雇用です。換装室は24時間利用可能です。

■ 利用票は、利用者スタッフをつなぐ大切なものです。感想欄にはぜひ、ご意見、ご感想をお寄せください。随時サポセン広場でご紹介しながら、みなさんと一緒に利用しやすいサポセンにしていきたいと思っています。

(サポセンスタッフ一同)

イベント紹介

12月

ぱれっと 2008年12月号 ●

- サポートセンターで行われる、参加者募集中のイベントを紹介します。
- 原則として各団体に提出していただいた文章をそのまま掲載しています。
- 毎月5日締め切りで、翌月サポートセンターを会場に開催するイベント情報を募集しています。掲載をご希望の方はお問い合わせください。

開催日時	イベントタイトル	貸室	参加費	主催/問い合わせ先
12月3日・10日 17日(水) 13:00~18:00	「女性のためのカウンセリングルーム」 開設中。同時募集:カウンセリング勉強 会メンバー若干名	研修室1	初回無料 2回目~2,000円 (事前申込必要)	この会 携帯:090-9635-6708 Fax:022-366-3168
12月4日(木) 18:00~20:00	日本のシンドラー・ 布施辰治を語る会	研修室5	500円 (会員の方無料) (事前申込不要)	World Open Heart Tel:022-343-9646 (阿部恭子)
12月4日(木) 18:30~21:00 (全6回)	体全体がポカポカになる足裏のマッ サージを学んでみよう。ボランティアや 健康管理にもプラスです。	研修室3	受講料2万、 認定申請料1万、 教材費7,000円 (事前申込必要)	JRFA足市場 Tel&Fax:022-223-9023 携帯:090-7564-9831 (森)
12月6日(土) 14:00~17:00	生きづらさを抱えた子どもたちの「非 行」と、親はどう向き合えばいいのか。 一緒に分ち合いませんか!	研修室2	500円 (事前申込不要)	みやぎ「非行」と向き合う親たちの会 携帯:080-1838-7464 (星野はるか)
12月9日(火) 10:00~11:45	親業セミナー 「考える力を育てる」 ~子どもとどう関わる?~	研修室5	500円 (事前申込不要)	PETフォーラム Tel&Fax:022-281-0858 http://www.k3.dion.ne.jp/~smile55/ index.html (石田えみ子)
12月10日(水) 19:00~20:30	元気のでるチラシづくりの秘訣	研修室2	1,000円 (事前申込必要)	メディアデザイン 携帯:090-3049-0613 Fax:022-224-5308
12月14日(日) 13:20~16:30	シニア元気笑学校・第6期最終日 1校時:エンディングプラン⑧ 2校時3校時:交流とパーティー	市民活動 シアター	1日1,000円 茶、菓子付 パーティー500円 (事前申込必要)	シニア元気笑学校 Tel:022-248-3765 Fax:022-248-3775 ※申込はFaxで (校長・渡辺源治)
12月14日(日) 14:00~17:00	犯罪加害者家族の会 家族が加害者 となってしまった方々の分ち合い(個別 相談も同時に受付)	研修室1	500円 (事前申込不要)	World Open Heart Tel:022-343-9646 (阿部恭子)

サポセン・シアターを3倍面白くする企画選考プログラム

『ぶこきがアンサンブルーみんなが何かを持っているー』
2008年4月~8月に開催されたすんぷちよ主催の創作ワー
クショップ参加者から出演者を公募。多様なメンバー構成
でパフォーマンスを集団創作するすんぷちよ初の舞台作
品。現代美術やオブジェクトシアターも取り入れたファンタ
ジックな舞台!

◆公演スケジュール

- 開場
各20分前
- 受付・当日券販売
各45分前

日時	14:00	19:00
12月6日(土)		○
12月7日(日)	○	

- ◆料金 前売 1,200円 (障がい者 1,000円)
当日 1,500円

※障がい者チケットは、即興パフォーマンス集団すんぷちよ
のみでの取扱となります。

<即興パフォーマンス集団すんぷちよ>

性別・年齢・国籍・障がいの有無を超えた多様なメンバー
構成で、「誰もがパフォーマンス創作の可能性を社会に伝
えること」「世間一般にある様々なレッテルをひっくり返す作
品を創作すること」を目的に活動している。

◆チケット取扱

◇即興パフォーマンス集団すんぷちよへ、メールにて申込
いただくか、下記プレイガイドにてご購入ください。

◇プレイガイド

あべひげ、ウィーンの森、せんだい演劇工房10-BOX、
三越仙台店、パルショップ(S-PAL 1F)、藤崎

◇問合せ 即興パフォーマンス集団すんぷちよ
携帯:080-3493-7529 E-mail:sumputyo@live.jp

仙台市シニア活動支援センターからのお知らせ

< 申込み・問合せ > TEL 022-217-3983
仙台市シニア活動支援センター (サポセン3階)

シニア総合相談 <無料/先着5名/予約制>	シニア一般相談 <無料/予約は不要>
<p>■12月18日(木) 13:00~20:00 定年退職後の経済面、健康づくり、 生きがいづくりについて考えを 整理してみませんか?</p> <p>相談員: 木下 博行さん 宮城県高齢者生活協同組合 理事・事務局長</p>	<p>○平日・土曜日 10:00~20:00 ○日曜日・祝日 10:00~18:00 ◆休館日 毎週水曜日・12/29~1/3</p>

お知らせ ●○○●

事務用ブースの 使用団体を募集します！

NPOやボランティア団体など、
自発的で公益的な活動を行う団体で、
事務所を必要としている方々に
「事務用ブース」をお貸しします。



- 使用期間＝平成21年2月1日～8月31日
- 対象＝継続的に市民公益活動を行い、市内に専用の事務所を持たない団体(企業を除く)
- 募集数＝4ブース(予定)
- 設備等＝机、いす、ロッカー 面積約4㎡
- 使用料＝月額 7,000円
- 使用団体は、提出書類及び1月24日(土)開催予定の選考会での説明内容等をもとに選考で決定します。
- 申込受付期間＝12月10日～19日
9:00～21:00(日曜日は17:00まで)

■問い合わせ・申し込み先
仙台市市民活動サポートセンター
TEL 212-3010 FAX 268-4042

仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体やNPO法人、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちが、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

- 開館時間 平日 / 午前9時～午後10時
日曜・祝日 / 午前9時～午後6時
- 休館日のお知らせ(施設点検等のため)
12/24(水) 平成21年1/28(水)
12/29～1/3 (年末年始のため)

サポートセンターのサービスあれこれ

- 貸室
(研修室・セミナーホール・市民活動シアター／有料)
打合わせ、講演会、シンポジウム等で使えます。
- ロッカー(有料) レターケース(無料) 事務用ブース(有料)
- 交流サロン
少人数の打合わせに予約なしで使えるフリースペース(無料)
チラシ・ポスターの掲示、展示スペース
インターネット接続スペース(要申込/無料)
- 情報サロン
市民活動団体に関するさまざまな情報があります。
市民活動相談の受付や図書の見学・貸出も行っていきます。
市民活動に関する情報収集用 インターネット閲覧(無料)
- 印刷作業室
印刷機(紙持ち込み/1製版100円、紙折り機(無料))
コピー機(1枚10円)

■ 問い合わせ先 ■

発行 行：仙台市市民活動サポートセンター
(指定管理者：特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター)
〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3
TEL:022-212-3010 FAX:022-268-4042
ホームページ <http://www.sapo-sen.jp>

発行日：2008年11月25日
編集：特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター
編集人：小松州子 葛西淳子 内川奈津子

- ★古紙再生紙を使用しています。
- ★大豆油インキを使用しています。



編集後記

- ◆秋は市民活動団体のイベントが多いシーズンです。あれも、これも行きたい！イベントに参加したスタッフによるレポートも楽しみの一つです。(小松)
- ◆温暖化の影響でしょうか、なんとなく季節のメリハリがなくなっているような気が・・・今年の寒さはどうなるのでしょうか。もうすぐ、冬がやってきます。(葛西)
- ◆マスクうがいをしていたのに、風邪をひきました。あれ？皆様、体調管理に気をつけましょう。(内川)

■ 案内図 ■



■ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。
[最寄のバス停]電力ビル前、商工会議所前、
広瀬通一番町前、地下鉄広瀬通駅前

[地下鉄]広瀬通駅西5番出口すぐ
□当施設に駐車場・駐輪場はございません。
お車や自転車でお来館される方は、
周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。
注)路上駐車は周辺の迷惑となりますのでおやめください。

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人
せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、
管理運営を行なっています。
指定管理期間：2007年4月1日～2010年3月31日